

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Subsequent Domino Osteoporotic Vertebral Fractures Adversely Affect Short-Term Health-Related Quality of Life: A Prospective Multicenter Study

(骨粗鬆症性椎体ドミノ骨折は短期の健康関連 QOL を低下させる ～多施設前向き研究～)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学 専攻 高次神経制御 系

整形外科 学 (指導教授 橘俊哉)

氏 名 楠川智之

骨粗鬆症性椎体骨折 (osteoporotic vertebral fracture : OVF) は骨粗鬆症患者の増加に伴い増加している。OVF はそのほとんどが保存的加療により症状の改善が得られるが、その中で偽関節形成が形成される例や、腰痛が持続する例、手術加療が必要になる例もあり、その後の ADL や QOL を低下させ死亡率にも影響することが知られている。日本において新規椎体骨折患者の発生率は 24.5/千人年と報告されている。その中で OVF 受傷後 1 年以内に続発椎体骨折を呈するものは 68.8/千人年と報告され、新規椎体骨折患者より高い値であり、新規椎体骨折に加え続発骨折の予防も肝要であると考えられる。

われわれは短期間で連鎖的に複数椎体に OVF を呈するものを椎体ドミノ骨折と報告している。椎体ドミノ骨折は ADL に悪影響を及ぼすことが知られており、本研究ではその発生率やリスク因子、ADL への影響を調査するため多施設前向き研究を行った。

初診時に OVF を認めた 60 歳以上の患者を対象とし、その 3 カ月後に MRI を施行し他椎体に OVF を認めたものをドミノ OVF 群、他椎体に OVF を認めなかったものを非ドミノ OVF 群として両群間で患者背景、治療内容、臨床成績を比較した。

ドミノ OVF の発生率は 13.6% であり、ドミノ OVF 群は既存椎体骨折が多かった。治療内容に有意差は見られなかったが、84.1% の患者は骨粗鬆症が未治療であった。臨床成績では初診時に有意差がなかったが、3 ヶ月時点では JOABPEQ の社会生活の項目、腰痛 VAS、ODI の値が有意に悪く、JOABPEQ の社会生活の項目はドミノ OVF 群では有意な改善がみられなかった。

椎体ドミノ骨折の危険因子は既存椎体骨折が多いことであり、ODI や腰痛 VAS、社会生活やその改善に悪影響を与えた。骨粗鬆症治療薬には有意な差はみられなかったが、ほとんどの患者は骨粗鬆症が未治療であった。骨粗鬆症患者の早期発見とその介入が新規椎体骨折や椎体ドミノ骨折を予防に寄与すると考えられる。